

Q CARD

病態把握能力向上ゲーム

遊び方説明書（ビギナーズ・ステップアップ編）

対象者：病院前救護に関わる全ての人
ビギナーズ編：2人～8人用
ステップアップ編：4人～8人用

【ビギナーズ編】 出札に対する病名・病態を答える

ゲーム準備

- ①「症状」、「検査所見」、「既往歴・リスク」のカードのいずれかのカードを山札として使用する。例では、症状を山札として使用します（ラッキーカードは使用しません）。
- ②じゃんけんで順番を決定し、インターバルタイマーをセットしスタートします（図1）。

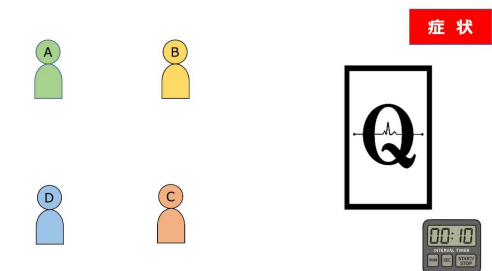


図1：ゲーム準備（Aから時計回りに開始する）

ゲーム進行

- ①山札から1枚出札位置にセットし、出札の内容に関する病名等を1つ答えます。
→ 答えられれば、次のプレイヤー（B）へ回答権移行します（図2）。
→ 答えられない or 回答が間違っている場合は出札を持札として回収します（図3）。
 - ②山札が無くなればゲーム終了で、持札の一番少ないプレイヤーが勝者となります。
- ※持札となったカードに関連する病名、病態をプレイヤー全員で確認してください。

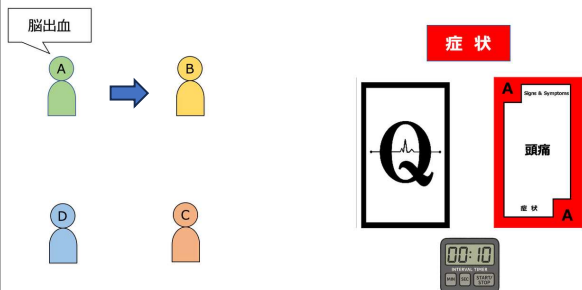


図2：Aが症状に対して回答し、回答権がBに移行する

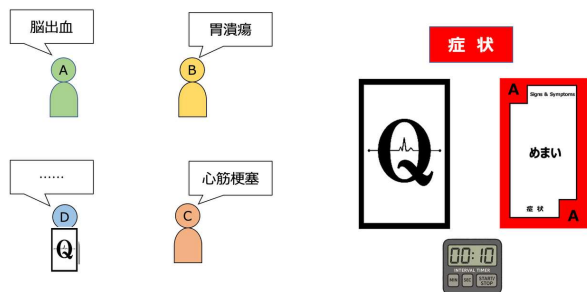


図3：Dがテーマに対して回答ができない場合（ペナルティとして1枚カードをとる）

【留意点】

- ①制限時間はレベルに応じて設定できます。
- ②タイマーが鳴る前に回答してください（回答できない場合カードを1枚引く）。
- ③タイマーが鳴る前に札を引くことはできません。
- ④回答に対して異議を唱えた場合は、全員で調べて判断します。
→ 正解なら回答権は次の人へ移行します。
→ 不正解ならカードを1枚引いてください。

【ステップアップ編】 テーマに対するカードを提出する

ゲーム準備

- ①オーダーカードを準備します（QRコードからDL可能です）。
- ②Qカードをフィールドマット上の山札位置に置きます。
- ③プレーする順番を決めます。

オーダーカード



ゲーム進行

- ①個人戦で行うかチーム戦で行うかを決定します。
- ②山札から、各種類のカードを2枚、合計10枚のカードを引きます。
※Aプレイヤーから開始し、時計回りにゲームが進行していきます。
- ③オーダーカードからテーマを決め、カードを順番に1枚ずつ出します※1（図4）。
 - ・進行例では、ACSをテーマに進行していきます。
 - ・提出するカードの順番は問いません（どのカードでも提出できる）。
 - ・可能な限り、カードを提出する際は、提出の理由を添えてください。
（例：「胸痛」のカードであれば、「20分以上継続する胸痛」など）
 - ・同じ種類のカードは提出することは可能ですが、同じ内容のカードは提出することはできません。ただし、「検査所見評価」のように、内容が抽象的で口頭の説明が必要なものについては、同じカードでも説明が違えば提出可能です。
- ④出せない場合、「パス」できますが、山札から1枚カードを取らなければなりません。また、間違えた場合も同様に山札から1枚カードを取ります（図5）。

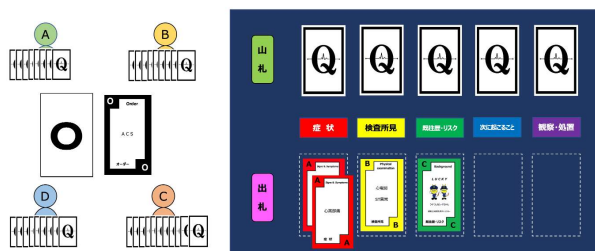


図4：ラウンドテーマをACSでプレーしている場合

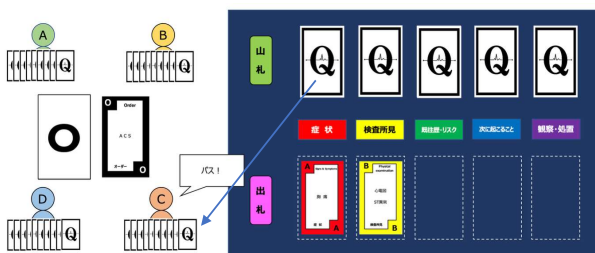


図5：Cがオーダーの病名に対して映出できず、パスしている様子

- ⑤全ての種類の出札を最低2枚以上提出できれば、ラウンドは終了です（図6）。
※病名に対する組み合わせをプレイヤー全員で確認してください
出札を全て山札に戻し、再度オーダーカードを取り、新たなラウンドでプレーします。
- ②～⑤を繰り返し、持札が早くなくなったプレイヤー（チーム）が勝者です。

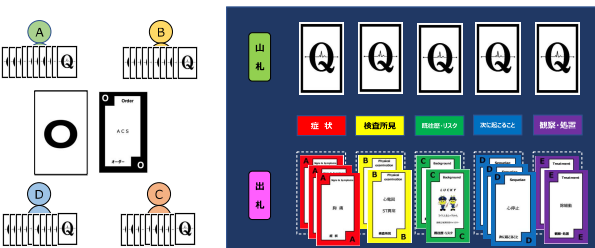


図6：出札が全て揃った状態